

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	42	大学等名	千葉大学
テーマ	テーマⅢ（高大接続）		

### （「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

#### 【総括評価】

S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

#### 【コメント】

大学改革の加速については、高大接続の多角化による双方向での高大接続カリキュラム開発にも積極的に取り組んだことにより、大学・高校双方がカリキュラムを有機的に結合する土壌が出来上がり、本事業で開発したカリキュラムや講座が発展的に継承可能となっている。また、本事業の成果を受け、新AO入試と先進科学プログラムの飛び入学では本事業で開発されたプログラムでの学修及び活動経験が評価されるようになるなど、AO入試改革も推進された。これにより高大接続カリキュラムの実効性が増し、大学教育の高度化が可能となり、令和2年度より独自の「ENGINEプログラム」の開始という新たなステージへ移行していることから、本事業を起点に、入試、そして教育課程の改革が一気通貫で行われたと言え、申請時の計画を上回るものであると高く評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、高大連携体制の充実による高校担当者側との「顔の見える関係」の構築、大学と高校の教員が協働した講座開催、評価手法の開発や探究活動・国際教育等に関する高大連携での研究・研修会の開催、高校からの視点を踏まえた新規の高大接続プログラムの開発・開始、高校との人事交流など、多岐にわたる取組によって、高大接続、高大連携が多様な面で展開されている。また、補助期間終了後の自走化に向けた学内体制の充実、入試改革及び入学前教育の大学での単位認定を伴う初年次教育改革にも取り組まれており、十分評価できる。なお、一部目標値に達していない指標が見られるものの、総合的には十分評価に値する。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、補助期間終了後の自走化のため、「次世代才能支援室」が高大接続センターの下に明確に位置付けられたことに加え、令和2年度からは、高大接続教育強化の組織改革として、全学部から選出された委員、高大接続・連携に関わる各センター、「高大連携支援室」、「次世代才能支援室」の代表者及び講座等の実施担当者からなる組織である「高大連携専門部会」が設置されている。これらの体制の整備は、高大連携・接続に関する情報の全学的共有を徹底し、プログラムの継続的实施を可能にするものであり、十分評価できる。また、学内での資金調達に加えて、令和元年度には試行的に受益者負担を取り入れている。資金面で完全に目途がついたとは言えない状態だが、補助期間終了後の継続・発展に向けた取組が進んでいる点は十分評価できる。評価・改善の仕組み構築のため、収集したデータをデータマイニングなどの手法を用いて分析・検討されていることも、十分評価に値する。

事業成果の普及については、高大接続・高大連携の先駆的なモデルとして、高校関係者や学内ステークホルダーに対して積極的に広報・周知が行われてきたことが、本事業を受講する高校生の増加や各種研究・研修会への参加者の増加などに結果として表れている。他大学への波及という点についても、学会・論文発表、以前より連携関係にある大学への働きかけや、全国の学長会議・学部長会議の場などにより積極的に情報を発信してきた点は、十分評価できる。